

ほっとろ

社団法人 ロシアNIS貿易会
調査役 服部 倫卓

わが国で流れるロシア関係のニュースは、殺伐としたものが多い。「ロシア人とはさぞかし陰險な連中なのだろう」と思っておられる方も多いのではないかと。

しかし、彼の国の街角で出会う普通の市民たちは、総じて善良な人々である。そのことを実感するのが、ロシア人に道を尋ねた時だ。

ロシアで道に迷ったら、遠慮せずに通りがかりの人に尋ねてみよう。私の経験によると、大抵は親切に教えてくれる。しかも、「三つ目の角を曲がってしばらく歩いたら緑の大きな建物があるから、その向かい側」とか、「第9番路線のバスに乗って二つ目の停留場で降りる」とか、非常に具体的に行き方を教えてくれる傾向がある。

ただ、こちらは外国人で、ロシア語話話にあまり自信がない。普段、小難しい文献ばかり読んでいるので、「角を曲がって」とか「バスに乗って」といったやりとりが、個人的にとくに苦手である。

そこで、当方は市街地図を取り出し、今、自分はどこにいるのか、目的の場所はどこにあるのかを指差してほしいと頼む。その時のロシア人の反応が面白い。少なからぬ人々が、先ほど

までの親切はどこへやら、「ちよっとそれだけじゃカンベン！」と異常な拒絶反応を示すのだ。どうも、ロシアの庶民は地図というものに慣れているのではないようなのである。社会主義時代に、秘密主義とモノ不足で、地図というものがあまり出回らなかったことが尾を引いているのではないかと思う。

ロシアの道案内人

あれも、便利なカーナビとかがないからこそ、当たり前の光

景になっているのであろう。ちなみに、ロシアでカーナビは、昨年〜今年あたりからようやく少しずつ出回り始めた程度である。

ただ、ロシアを注意しなければならぬのは、日本と違って、お巡りさんに道を聞いてはだめだということ。ロシアでは警官に至るところにたむろしているが、その職務は犯罪者を取り締まることに限られ、道案内は管轄外だ。

彼らのなかには、外国人と見れば難癖をつけて金品をむしりとりとする輩(やから)もいるので、かわりあいにならないようにしたい。ロシアでは、警官ではなく、一般の通行人に道を尋ねる。回国にお出かけの際は、ぜひ覚えておいていただきたい。

それにつけても困るのは、ロシアの街を歩いていると、時々、ロシア人に道を聞かれることがある。もちろんロシア語で。

ロシアはもともと多民族国家で、アジア系の少数民族もいるし、モスクワなどは完全にコスモポリタンな街である。だから、アジア人がロシアの街に詳しくても、何ら不思議はないのだが、私などは狼狽(ろうたい)してしまう。